

保護者の皆様

札幌市立太平小学校
校 長 田中 徳光

全国学力・学習状況調査の分析結果と改善策について

今年度 6 年生を対象に行われました、全国学力・学習状況調査についての分析が終わりましたので結果をお知らせいたします。

この結果をもとに児童の実態の傾向を把握し、今後の指導に生かしていきたいと考えております。2 年生以上で行われている学力検査、行事ごとに行われている教師による子どもの育ち交流、児童アンケート、保護者アンケートなどを考慮し改善点として生かしていきたいと思います。

【小学校国語】

本校の概要（全国平均との比較）	今回の調査における課題	改善の方向
【学習指導要領の内容】 □「話すこと・聞くこと」の平均正答率 ・全国の平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。	●目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる。	・相手に伝わりやすい言葉と内容を構成する活動を充実させ、双方向でのやり取りが行われる活動を取り入れていく。
□「書くこと」の平均正答率 ・全国の平均を下回っている。	●図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。	・国語の学習だけではなく、他の教科でも言葉で表現する活動を取り入れていく。
□「読むこと」の平均正答率 ・全国の平均を下回っている。	●事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。	・短い読書の時間な中でも、読んだ内容とその用紙を問いかけるなど、読書の活動のできる工夫を取り入れていく。
□「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率 ・全国の平均を下回っている。	●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。	・日常的に学習した漢字を使用する機会を増やし、常に見直していくことを伝えていく。
□「情報の扱い方に関する事項」の平均正答率 ・全国の平均を下回っている。	●情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。	・言語化することや言葉に整理することなど、伝える相手を意識した表現方法を考え、伝え合う活動に取り入れる。
□「我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率 ・全国の平均を上回っている。		

【小学校算数】

本校の概要（全国平均との比較）	今回の調査における課題	改善の方向
【学習指導要領の内容】 □「数と計算」の平均正答率 ・全国の平均と同程度であるが、やや下回っている。	●示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができる。	・日常生活の中から算数的な問題場面を想起し、解決方法を見通して立式をするなどの経験をさせていく。
□「図形」の平均正答率 ・全国の平均を下回っている。	●基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を式や言葉を用いて記述できる。	・図形を構成する要素に着目させ、特に複合図形の面積の求め方について、式や言葉を用いて答えを導く活動を充実させる。

☐ 「測定」の平均正答率 ・全国平均と同程度である。		
☐ 「変化と関係」の平均正答率 ・全国の平均と同程度であるが、やや上回っている。		
☐ 「データの活用」の平均正答率 ・全国の平均を下回っている。	☒ 目的に応じて適切なグラフを選択して増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。	☐ 「国語の書くこと」と同様、グラフを読み取って考えたことを言葉で表現する活動を取り入れていく。

【小学校理科】

本校の概要（全国平均との比較）	今回の調査における課題	改善の方向
【学習指導要領の内容】 ☐ 「エネルギーを柱とする領域」の平均正答率 ・全国の平均を下回っている。	☒ 乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いている。	☐ 実物を使った体験的な学習を重視し、タブレット教材などで見える化する学習を取り入れる。
☐ 「粒子を柱とする領域」の平均正答率 ・全国の平均と同程度であるが、やや下回っている。	☒ 水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解している。	☐ 水の状態変化の仕組みを実験と生活体験を通して、実感的に理解できるようにしていく。
☐ 「生命」の平均正答率 ・全国平均を下回っている。	☒ 種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができる。	☐ 実験結果を基に疑問をもち、それを言葉で表現するなど、科学的探究の姿勢を育てていく。
☐ 「地球を柱とする領域」の平均正答率 ・全国の平均を下回っている。	☒ 氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習してことと関連付けて、知識を概念的に理解している。	☐ 自然の仕組みについて根拠がある説明できるように、実感を伴う観察や体験活動を重視していく。

【児童質問紙】

☐ 全国の結果と比べると、高い傾向にある項目 ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。 ・友達関係に満足している。 ・学校生活をよりよくするために話し合い、互いの意見のよさをいかして解決方法を決めている。 ・国語、算数、理科の勉強は好き。	☒ 全国の結果と比べ、低い傾向が見られる項目 ・学習内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。 ・算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できている。 ・国語、算数の授業の内容はよく分かる。
--	---

【見解】

今回の調査項目にあった「国語、算数、理科」については「好きだ!」と答えている児童が多くいます。例年に比べると、全国平均と同程度、または上回っているという項目も多く、学習に対する意欲の高さが伺えます。その反面、「授業の内容はよく分かる」と答えている割合は高くありません。特に算数では学年が上がるとともに教科書にある文章問題が日常生活から離れていく傾向にあります。その学習の必要性や将来どのような力となって生かされていくのかを普段の学習から伝えていくことが大切です。

学校生活において、友達関係が良好であり、教員をはじめとする学校にいる大人に対しても、よき相談相手として関わっていることを嬉しく思います。また、学校生活をよりよくするために、話し合いの中から解決方法を決めているという観点については、札幌市の教育で重視されている自治的な活動が本校の児童にも根付いてきていると感じます。